



世界最大の図書展フランクフルトブックフェアが、10月8～12日の5日間、市中心部のメッセ会場で開催されました。トランネットが毎年30万人近い来場者が集うこの歴史あるブックフェアに参加するようになり、十余年の歳月が経ちます。

年間200冊近い翻訳案件を呼び込むためにも、このブックフェアで仕入れる各国の新刊情報（そのほとんどは現地でも来年以降に発刊される）は重要です。来年以降のトランネットの屋台骨を支えることになるといっても過言ではありません。また、10年ほど前からは日本の作品を世界に広めるべく、「買い」のビジネスと並行して「売り」のビジネスにも注力してきました。今年は多くの出版社やエージェントと同様、トランネットでも[ライセンスカタログ](#)を作成して参加してきました。

## 【ブックフェア概況】

ブックフェア期間中に、フランスの人気作家 Patrick Modiano 氏のノーベル文学賞受賞のニュースが入ってきました。フランスの版元、[GALLIMARD](#) 社が喜んだのはもちろん、英語版の発行準備を進めている[イエール大学出版局](#)は、当初2,000部予定だった初版を急遽10倍の20,000部に引き上げる決断をしたとか。

さて、今年のフランクフルトブックフェア期間中に巨額の前払印税で獲得されたタイトルを2点ご紹介します。

現在ペンシルバニア大学で心理学を研究している Angela Duckworth 氏は、マッキンゼー社のコンサルタントとして活躍したあと、ニューヨークの公立中学校で数学を教えていました。氏はコンサルタントや教師の仕事を通じ、「人間が成

功するのに最も大切な要因は何か」というテーマに多大なる関心を抱くようになり、心理学の道に進みます。そして、研究の結果、人間が成功するのに重要なのは IQ でもなければ EQ でもなく、Grit（情熱を持ってやり抜く力）が鍵となるという結論に辿りつきました。氏の [TED トークでのスピーチ](#) は、昨年公開されて以来すでに 500 万回以上視聴されています。

Duckworth 氏のデビュー作となる *Grit: Passion, Perseverance and the Science of Success* は、やる気や情熱、根性といった特性がどのように人を成功に導くのかを科学的見地から明らかにしようという意欲作で、アメリカの [Scribner](#) 社が日本円にして 1 億円を超える前払印税で落札したようです。その他、イギリス、カナダ、ブラジル、スペイン、オランダ、アラビア語圏も続々と名乗りをあげたと報じられていました。

もう一冊は世にも奇妙な実話のもとになっています。

アメリカの最東北部に位置するメイン州は内陸の深い森と美しい水流などに恵まれ、数千年前から先住民が住んでいた自然豊かな土地です。その森の奥深くに、誰とも会わずに隠遁生活を送っている男がいることは、地元では昔からよく知られていました。しかし、誰一人としてその男と接触した者はなく、ほとんど伝説となっていたそうです。興味を持ったマスメディアが何度も接触を試みたものの、いずれも失敗に終わっていたのですが、ついに、Michael Finkel という『New York Times』の元記者が接触に成功します。そして、その伝説の男が 27 年間も誰とも会わずに森で暮らしていたという事実が明らかになりました。この経緯が『[GQ](#)』9月号に掲載されるや全米で大きな話題となり、今回の出版につながったようです。

## 【電子書籍のサブスクリプションサービスが台頭】

ヨーロッパでは電子書籍を英語のまま配信しても相当数の人が読めるため、英語圏の大手出版社は電子書籍の世界展開に強い意欲を持っています。米 HarperCollins 社は、150 万人のユーザーを持つロシアの電子書籍配信サービス [Bookmate](#) と業務提携したようです。これにより、米 HarperCollins はロシアの読者に向けて、既刊書を中心に英語の電子書籍を提供することになります。それに呼応するように、英 HarperCollins 社がアメリカの電子書籍のサブスクリプションサービス [Scribd](#) と業務提携しました。

電子書籍のサブスクリプションサービスとは、毎月定額を支払うことで電子書籍が読み放題になるというものです。何百年、何千年と続いた人間の読書体験の在り方を根底から変えてしまうこの動きは、今後も加速していくと思われます。

Amazon も Kindle Unlimited というサブスクリプションサービスを開始しました。月額 9.99 ドルで 60 万冊以上ある電子書籍やオーディオブックが読み（聞き）放題になります。デンマークでは [Mofibo](#) という電子書籍のサブスクリプションサービス専門の出版社が大成功を収めており、これからイギリスやスウェーデンに進出するにあたって、Penguin Random House 社でデジタル部門のトップだった Nathan Hull 氏を迎え入れることになりました。

## 【大手出版社やテクノロジー会社によるコンテンツ囲い込みの動き】

今年のフランクフルトブックフェアには、サムスンがテクノロジーパートナーとして参加していました。その狙いはコンテンツを取り込むことにあるようです。タブレットやスマートフォンのシェア獲得で大きく成長してきたサムスンですが、デバイスのシェア争いは浮き沈みが激しいため、生き残るには、電子書籍や音楽等のコンテンツ配信ビジネスで鎬を削っている Google や Apple、Amazon 同様、コンテンツを囲い込むことが不可欠と判断したようです。同様に、楽天も傘下の Kobo が現在発売しているタブレットを最後に、今後はアプリなどのソフトやコンテンツ獲得に集中する方針を打ち出しました。タブレットやスマートフォンのようなデバイスはあと何年使われるかわかりませんが、たとえ 50 年経っても名作のファンがいなくなることはないでしょう。最近では、「Content is king」が巨大テクノロジー企業のあいだで合言葉のようになっていきます。

また、コンテンツが出版社以外の企業に取り込まれる傾向にあり、既存の出版社は焦りを募らせているようです。

イギリスの老舗出版社 Bloomsbury のディレクター、Richard Charkin 氏が、「今や出版社以外のテクノロジー企業やスタートアップ企業がコンテンツビジネスで大きな成果をあげており、著者はどこと組むのが得策なのかを考えている。これまでは読者が我々の顧客だったが、今や読者を獲得する前に著者を獲得しなければならず、著者獲得こそが我々の最大の関心事だ」と語っていたのが印象的でした。

「著者獲得」ということでいえば、Amazon が 4 年前に立ち上げた Amazon Publishing はシアトルからヨーロッパに軸足を移しつつあります。この 4 年間で、多言語から英語への翻訳書だけでも約 130 タイトルが出版されました（日本語原作の作品は今のところすべてトランネット経由でライセンスしています）。税金逃れでヨーロッパでもやり玉にあがっている Amazon ですが、翻訳書にあまり積極的ではないアメリカの出版界でこの翻訳書出版点数は異例とあってよく、こと AmazonCrossing の事業に関しては、世界の多様性を英語で出版することを高く評価する関係者も多いようです。AmazonCrossing は設立されてまだ 4 年にもかかわらず、翻訳書の発行点数ですでにアメリカでトップ 3 に入っています。また、Amazon Publishing がアメリカで出版した英語コンテンツはかなりの数になっており、昨年はこのうち約 200 タイトルがドイツ語に翻訳され、リリースされました。中でも、Tracy Brogan 著のロマンス小説 *Crazy Little Thing* のドイツ語版は Kindle ベストセラーランキングで 1 位を獲得。フランス語やスペイン語にも翻訳され、現地での販売が始まっています。次に展開される国については憶測が飛び交っていますが、日本もその候補に入っているようです。

## 【デジタルレボリューションによる新たな潮流】

コンテンツのデジタル配信には従来の印刷コストや運送コストがかからないため、翻訳出版のハードルが下がり、様々なベンチャーが始まっています。

世界の文学を英訳し、電子書籍オンリーで展開する Frisch & Co. という出版社が 2 年前にベルリンで設立されました。同社を立ち上げたアメリカ人の EJ Van Lanen 氏は「電子書籍の時代だからこそ翻訳書出版のハードルが下がった」といいます。ブックフェアでも、リリースした電子書籍の中で反響の大きいタイトルはペンギン社からハードカバー版を出版するという同社の試みが話題となっていました。



Frisch & Co. ならびに Van Lanen 氏に関する記事は、『The Guardian』の「The Observer」にも掲載されました。

今回、幸運にも Van Lanen 氏と直接お会いして情報交換を行うことができ、トランネットが扱っている日本の文学作品の翻訳出版を検討してくれることになりました。

「『Publishing Perspective Show Daily』10月8日号

「EJ Van Lanen 氏と筆者



また、コンテンツのデジタル化により隆盛してきたのがセルフパブリッシング（自己出版）です。

現在、Amazon Kindle Direct Publishing と Smashwords がセルフパブリッシングのプラットフォームとして世界最大規模を誇っていますが、Bowker 社の調査によると、2013 年にアメリカで発行された ISBN の数は、従来型の出版物物が 30 万点で、セルフパブリッシング用が 39 万点。セルフパブリッシングは過去 5 年間で 470% も増加したそうです。従来の出版関係者からはほとんど無視されてきたセルフパブリッシングですが、世界で流通する電子書籍の majority をセルフパブリッシングが占めるのは、もはや時間の問題のようです。

そんな中、セルフパブリッシングのキュレーションを専門とし、世界に翻訳権のライセンスを行う Authoright という会社が、今回のブックフェアで注目されていました。同社代表の Hayley Radford 氏は、セルフパブリッシングの著者のほとんどがアメリカ国内だけでなく世界で翻訳出版されることを望んでおり、ポテンシャルの高い作品も多いと言い、そのような作品を発掘することの意義を強く感じているそうです。氏の発言を裏付けるデータがあります。ドイツでは独 Amazon を通じて英語の書籍がよく売れるようですが、ベストセラーの上位 80% は、なんとアメリカでセルフパブリッシングされたタイトルだそうです（ちなみに現在、米 Amazon のベストセラーランキングリストの 25% 相当がセルフパブリッシングタイトル）。

## 【日本の書籍に対する注目度】

もともとマンガやグラフィックノベルを中心に展開している出版社 Yen Press のインプリントである Yen On が、日本のライトノベルの英訳出版に本格的に乗り出しました。

2006年頃にも、日本のマンガを英訳出版していたアメリカの出版社のあいだでライトノベルについて市場調査が行われましたが、そのときはマンガのように市場を形成することは難しいと判断されたようです。以前は大手チェーン書店 Borders のキャンペーンが日本のマンガの普及に大きな役割を果たしましたが、Borders が消滅した今、ライトノベルがどのようにアメリカ市場に受け入れられるのか興味がそそられます。アメリカでは現在、YA (ヤングアダルト) 小説の読者層が 20 代にも拡大して急成長を遂げており、ライトノベルがこの市場を取り込めるかどうか成功の鍵となるような気がします。

日本でミリオンセラーとなった『人生がときめく片づけの魔法』(近藤麻理恵著/サンマーク出版)は、英語圏で翻訳出版されたあと、アジア圏はもとよりドイツ、ブラジル、デンマーク、フランス、イタリア、オランダ、ポーランド、トルコ等でも続々と翻訳出版され、大きな反響があったようです。

■『Publishers Weekly』8月25日号で紹介された『人生がときめく片づけの魔法』(近藤麻理恵著/サンマーク出版)に関する記事

担当したエージェンシー Waterside Production の Neil Gudovitz 氏と今回のブックフェアでお会いしましたが、「サンマーク出版がきちんとした英語の全訳原稿を用意してくれたのがポイント」と語っていました。これにより、欧米の関係者のあいだに「日本の自己啓発書はいける」という期待感が生まれたので、「今後も引き続き日本からの情報に注目している」とのことでした。

## News

### Self-help

## A "Neat" Bestseller from Japan

For literary agent Neil Gudovitz of Waterside Productions, licensing a Japanese self-help book to English-speaking markets, which is extremely rare, requires "not only the right book but also the right sort of U.S. and U.K. editors, and the right partners in Japan." The time he spent with the Tokyo-based Sunmark Publishing team in New York convinced him that they had the patience and determination to make *The Life-Changing Magic of Tidying: A Simple Effective Way to Banish Clutter Forever*, Marie Kondo's bestselling self-help book on decluttering and the organization of personal space, work in those markets.

And worked it has: in Japan (where tight living spaces tend to be tidy and or-

derly), *The Life-Changing Magic of Tidying* is now in its 55th printing and has racked up sales exceeding 1.5 million copies. Translations are now available in Chinese, German, and Korean, and rights have been licensed to a dozen more countries, including Brazil, Denmark, France, Italy, the Netherlands, Poland, and Turkey.

Gudovitz has handled thousands of titles during his 20 years in the industry, and he's amazed at the book's impact: "I have never before had editors—even founders and presidents of publishing houses—write to me saying that they used a particular book to change the way they live."

Lisa Westmoreland, senior editor at Ten Speed Press, for instance, found herself identifying deeply with the trials and tribulations that the author's clients went through trying to downsize their possessions. "Most importantly, having just gone through a massive decluttering exercise myself, I realized that I had been doing it all wrong. It was an 'aha' moment," she said, adding that "America is a nation of hoarders, and we are probably all doing it wrong. This book [holds] the key to a new way of going through our belongings: *ikéi ni*, which means 'to tidy them all in one go.'"

Westmoreland reports that the book's design was also guided by *ikéi ni*: "Rather than giving it a utilitarian paperback treatment, we have a tidy and pleasing little hardcover, and instead of printing a 'copies sold' burst directly on the cover for its September launch, we went for a sticker so that readers can peel off that extra clutter."

In the U.K., publishing director Susanna Abbott of Vermillion's colleagues have been sending her photos of their transformed living spaces, and a typesetter confessed that he was finally able to let go of his mother's possessions and come to terms with her death. "Marie Kondo will motivate you to declutter

your home and make it surprisingly easy to get rid of all the things you don't really like or need," noted Abbott.

Gudovitz says that, in addition to the book's ability to grab editors' attention from the get-go, the English translation has been the key to its success. "The Sunmark team realized, that in order for their title to succeed internationally, they need a professional translator with native English—and that is the primary and crucial element," he said. "The translation must be pristine when it is first presented to the American and British editors. Fair or not, these editors have little to no patience with an imperfect translation since substantially editing or rewriting a translation is not a part of their program."

Gudovitz says the book's triumph in English markets is particularly impressive because there is "virtually nothing in the self-help category from international authors, especially from Asia-Pacific authors." Gudovitz is currently working on Kondo's follow-up titles and other Sunmark bestsellers such as Yoshinori Nagumo's *Being Hungry Makes You Healthy*, and Kyocera founder and chairman Kazuo Inamori's *The Kyocera Philosophy*.

"The success of Marie Kondo's book," Gudovitz said, "hopefully will help to correct the imbalance and do for international self-help and nonfiction what Stieg Larsson has done for international commercial fiction." —Teri Tan

### SASQUATCH BOOKS OUT-OF-PRINT NOTIFICATION

Sasquatch Books has declared a list of titles Out-of-Print, effective 9/1/14. These titles may be returned for full credit within the next 180 days.

The complete list is available at [www.sasquatchbooks.com](http://www.sasquatchbooks.com)  
Returns for these titles must be received by February 28, 2015.







イギリスの著名な文芸誌『GRANTA』は今年、日本の特集を組み、村田紗耶香、本谷有紀子らの作家が多いに注目を集めたようです。トランネットでは GRANTA への情報提供を始めており、今後は作家だけでなく優秀な翻訳家の情報共有もしていくことになりました。

GRANTA の編集者さんから日本特集号をいただきました



なお、今回もノーベル文学賞を逃しはしましたが、村上春樹氏もはや世界の現代文学をリードしている感があります。写真は『The New York Review of Books』のフランクフルトブックフェア特別号に掲載された『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』の書評です。

以上、駆け足でフランクフルトブックフェアの様子をお伝えしましたが、何かございましたらお気軽にお問い合わせ頂けると幸いです。

【参考文献】

- Publishers Weekly Show Daily Oct. 8-10
- The Bookseller Daily Oct. 8-10
- Publishing Perspective Show Daily Oct. 8-10

近谷浩二

chikatani@trannet.co.jp